

歩み

2001年9月24日、シニア自然大学校で研鑽を積まれた45名が、「私たちは大和の自然を愛します」の合言葉のもとに相集い本会は呱呱の声を挙げました。草創期は東海自然歩道の散策、県内の自然観察、歴史探訪などの研修活動が中心でしたが、その後2003年11月、生駒山東斜面の棚田再生事業に協働で携わり、2004年4月からは奈良森林管理局から奈良市忍辱山町の国有林間伐整備事業を受託するなどを通じて、地域市民との一体協働活動型へと変遷してきました。

そして、本格的な活動拠点を求めていたところ、2007年4月12日、奈良県から「ならやま里山林景観整備保全事業」を受託、「ならやまプロジェクト」として荒涼殺伐とした里山林の景観整備保全の活動を開始して現在に至っています。生駒棚田再生協働活動と忍辱山国有林整備事業は2008年度末までに終了し、2009年4月からはならやまプロジェクト活動に注力することとなりました。

コナラとクヌギが大半を占めるならやま里山林では、当初からナラ枯れ被害が予想されたことから、2010年4月に里山講習会「ナラ枯れ問題と里山林の管理」を開催し、2011年6月には、奈良県・森林総合研究所関西支所・奈良県森林技術センターとナラ枯れ調査4社会議を開催して協力体制を確立させ、ナラ枯れ調査を開始しました。また並行して、森林技術センターと協働でコナラ再生のための部分皆伐萌芽試験を実施しました。その後、2012年9月にナラ枯れ発生を確認したあとは、第二次地区萌芽試験の実施、ならやま里山林中心部の部分皆伐と植樹などに懸命に取り組みました。そしてようやく、2018年12月にはナラ枯れの終息を認めることができました。

当会では、ならやまプロジェクト活動と、月例研修会や自然観察会の自然文化活動に加えて、種々のクラブ活動も活発で、多岐にわたる活動には、会員それぞれが自由に参加できる仕組みになっています。中でも、ならやまプロジェクトの管理区域は、当初の7haから現在は16haにまで拡大し、景観形成整備と保全活動を地道に進めています。

理念の一つである「地域貢献活動」では、「小学生の森林環境教育」「水稻栽培体験実習」「校庭観察会」「放課後子供教室」や関係団体のイベントなどにも積極的に参加しています。

主な褒賞には、「奈良県環境保全功労賞」「国土緑化推進機構会長賞」「地域環境保全功労者表彰（環境大臣）」「生物多様性アクション大賞入賞・第12弾連携事業認定」「第36回緑の都市賞奨励賞」「第7回あしたのなら表彰」「平成29年緑化推進運動功労者総理大臣表彰（第11回みどりの式典）」「第32回緑の環境プラン大賞」、そして「令和3年秋の褒章での緑綬褒章」などがあります。

2019年4月には、会員がならやま里山林で10年以上の歳月にわたって収集した昆虫と植物、各200種余りをとりまとめ、図録「見つけよう自然のなかま-ならやまの昆虫と植物たち-」として発行し、全国の小学校、図書館などに寄贈、朝日新聞の「天声人語」でとりあげられたのをはじめ、メディアにも紹介されました。これに続いて、2022年3月には、ならやま里山林の主役である「ならやまの木々たち」を発行し、同じく各方面から好評を得ています。これらは、これからの環境教育に役立てたいと考えています。

会発足21年目を迎えて、「仲間への尊敬と感謝」を基点に「明るく楽しく無理をせず あなたも私も力を合わせて」、新たな5年10年に向かって、着実に歩み続けます。